

令和3年度活動報告

◆令和3年度 第30回 通常総会 (令和3年6月12日)

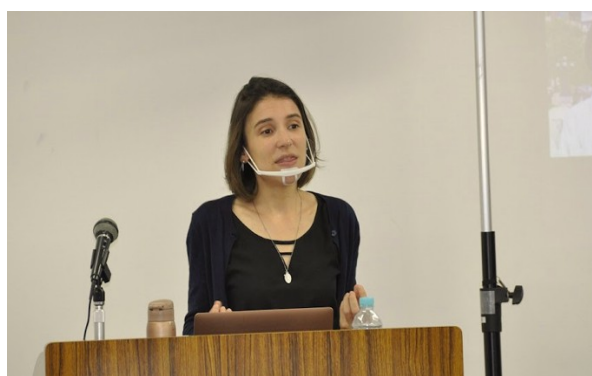
『府中町国際交流協会 令和3年度第30回通常総会』を府中町国際交流協会事務室で開催致しました。今年は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令措置により協会役員のみによる書面議決となりました。審議の結果、「令和2年度事業報告、決算報告」「令和3年度事業計画、予算」「役員選任」の3議案が全会一致で承認されました。当協会は平成3年の創設以来、国際交流事業を通して多文化共生を図って参りました。しかしながらここ2年間はコロナ禍



の下、国際交流事業開催は困難な状況が続いています。今後、状況が好転すれば在住外国人が再び増加し、それにより発生が予想される諸問題への対応など、より一層の町行政・関係部署との連携が必要と考えられます。今後とも充実した事業を開催していけるように役員一同、鋭意努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。(※写真は令和2年度協会役員のみによる開催の様子)

◆外国人ゲストによる講演会 (令和3年7月18日)

本年度1回目のイベントとなる「外国人ゲストによる講演会」をくすのきプラザに於いて実施しました。新型コロナウイルス感染状況を踏まえた府中町のコロナ対策に準じる形で参加者数限定、除菌・消毒等の徹底に努め、15名の会員・一般参加者に御来場頂きました。講演者は、広島在住で持続可能な平和文化創設・平和教育活動に携わるNPO法人ピースカルチャービレッジ(PCV)の共同創設者メアリー・ポピオさんをお迎えしました。講演会の題目は「私とヒロシマ(”Hiroshima and Me”)」でした。



クリスチャン(カトリック)の家庭で育ち、イエズス会系のボストン・カレッジで国際関係・アジア研究を専攻したポピオさんは、子供のころから日本のビデオゲームやアニメに熱中したそうです。それらを通じて日本への強い関心も醸成され、大学2年生で「隠れキリシタン」歴史調査のため初来日し、長崎の地を踏むこととなります。彼の地で太平洋戦争末期の日本への原爆投下について初めて知るとともに、自分のロザリオ(十字架)と同じ種類の被爆ロザリオに遭遇、これらの経験が平和希求・活動に向けての人生の転換点になったとポピオさんは語ります。

現在、IT技術と様々なアイデアを駆使して、PCVでの若い世代への平和教育と次世代リーダー育成に力を注ぐポピオさんは、自分は最早平和活動家ではなく平和教育家だとして、平和教育の重要性についても強調しました。「物事には様々な視点があること」と「正解は一つではない」ことを若い世代に学んで欲しいと語るポピオさんご自身もまだ若く、エネルギーと信念に満ちたリーダーとお見受けしました。素晴らしい講演と来場者の積極的な参加により、充実したイベントとなりました。

◆外国人日本語スピーチ発表会(令和3年12月12日)

昨年まで開催していたコンテスト形式を改め、今回は外国人日本語スピーチ発表会として初めて開催をいたしました。発表者は、アメリカ・中国・ベトナム・タイ・ミャンマー・カンボジア国籍9名の方で日本語にてスピーチを実施いただきました。現在のミャンマー情勢など祖国のお話や国旗の説明、日本での生活の苦労話や楽しみ方等、興味深い話をたくさん聞くことができ、参観に来られた方にもたいへん好評でした。発表会終了後は、日本語教室の先生によるビンゴゲームもあり、36名の参加者も大いに盛り上がりました。



◆日本語教室(令和3年4月~令和4年3月)

通常は毎週日曜日に、府中町商工センターにて1時間半開催しています。今年度も新型コロナ蔓延による会場閉鎖の影響により日本語教室を開催できた期間はとても短かったのですが、恒例のクリスマス会は開催することができました。現在、日本語教室は少人数グループ形式か個人レッスン形式で行っており、日常生活会話だけでなく希望により日本語検定受験対応も行っています。令和4年度も新型コロナの蔓延状況にもよりますが、教室外のイベントを企画し実施していきたいと思えます。2019年に実施した平和公園と原爆資料館の見学、弓道体験、そしてお花見やいちご狩りなども復活させたいイベントです。

